

在宅静脈栄養患者における 災害時の多職種支援シミュレーションの構築

田附 裕子 ●大阪大学 大学院医学系研究科 准教授



最近の現地及びオンラインにおけるハイブリットカンファレンスの様子

者が病気・災害にあったとき」「親の高齢化」「冷蔵輸液など電源問題」「衛生環境の維持」などの回答が寄せられた。

そこで地域を含めた多職種支援で個々の患者における災害時の対策シミュレーションを行い、在宅静脈栄養患者の不安の解消を図るための取り組みを開始した。

1. 背景と目的

在宅中心静脈栄養は清潔管理を前提とするため、患者家族ともに細心の注意を払って日々のカテーテルの管理や静脈栄養管理が実践されている。しかしCOVID-19感染症対策下の影響を受け、在宅中心静脈栄養患者・家族の通院に対する不安は強く、また自宅で輸液管理に必要な衛生物品の供給に関する不安が増大した。

当院では、2020年に腸管不全治療センターが発足し、腸管不全患者に対する多職種連携での支援体制を拡大させたが、ちょうどCOVID-19感染拡大の影響を受け、患者の不安を回避させるため、電話診療を希望する患者には、外来主治医が電話診察にて処方せんの発行、在宅物品の郵送手配を行い、日々の在宅医療に支障をきたさないよう配慮を行ってきた。その中、任意で行った患者・家族の意識調査において、災害時に不安と感じる内容は、多い順に「親が病気・災害にあったとき」「点滴や物品の確保」「訪問含む地域医療体制」「受診できるか：交通の問題」「患

2. 取り組みの方法

在宅中心静脈栄養が必須の腸管不全治療患者で、当院において在宅処方を受けている患者に関わる多職種でのカンファレンスを、患者・家族の意思を確認の上で開催する。院内関係者だけでなく、院外における関係者として調剤薬局：薬剤師（各患者が在宅患者訪問薬剤管理指導を受けている調剤薬局の担当者）及び訪問看護ステーション（各患者が導入している訪問看護）とのオンライン懇談を通じて、個々の患者について災害時の対応マニュアル（常備品のマニュアル）の作成を行う。

3. 期待される成果

結果として、災害時における在宅静脈栄養患者・家族に対し、個々の抱く不安に対する多職種支援のシミュレーションにより、万が一の場合についても不安解消の一助となり、日常生活の自信につながることを期待している。また地域に向けても、患者に関する情報提供を還元することで災害時における支援体制を強化できると考えている。